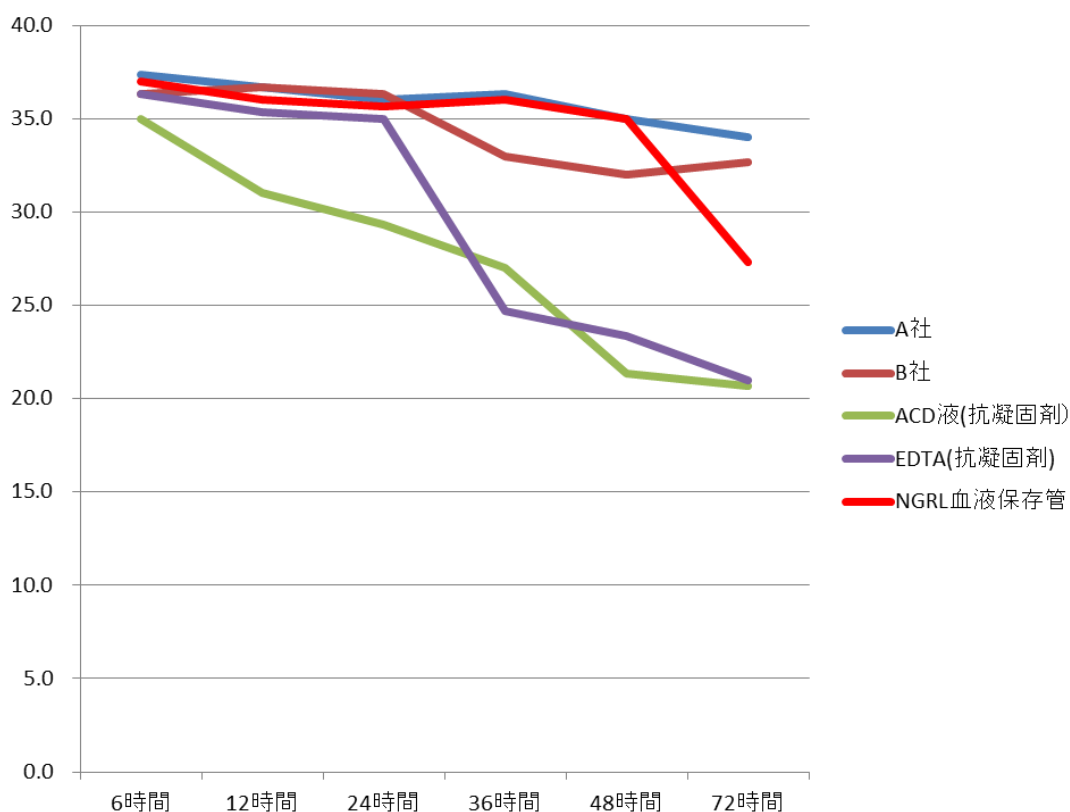


■検査の実績

CTCは血液中で非常に脆弱であり、かつタンパク質分解酵素を分泌するなど多様な姿が垣間見られます。このような血中を循環する希少な腫瘍細胞を検出することは非常に難しいと言われております。実際、私達もCTCの検出が難しいことを経験しております。その経験の一つに、採血から時間経過と共にCTCの検出精度は下がり、新鮮血液でなければ難しいことを痛感いたしました。その経験から採血後の血液保存管についての開発を進めてまいりました。その結果、CTC検出数において現在のところ48時間以内が限界ではありますが、これまで市販されている血液保存管と同等もしくはそれを上回る結果が得られる保存管を開発することができました。（下図）

図. 血液保存管の実験結果



先に述べたようにCTCの研究では、EpCAM発現のない「CTC」が存在することが報告されています。

そのため、CD45 depletion法を用いて得られたCTCの結果と、EMTの可能性のあるCTCを同時に測定することが重要と考え、Type. 1、Type. 2の両方の結果を報告しております。

CTCの検出は既存のPET、X線などの画像診断、腫瘍マーカーのPSA、CA125、CA15-3 に比べさらに早い段階でがんを発見する可能性があります。

この度、多くの先生方、患者様のご協力をいただき、私達が開発した血液保存管を用いてCD45 depletion法を実施しました。その結果を以下に示しました。

